

笹田 哲（大学院保健福祉学研究科兼務）

1 著書

- 1) 笹田哲：作業療法評価学 第4版。QOL、興味、役割の評価。pp222-233. 医学書院。2024. 1.
- 2) 笹田哲：人間の発達とは。人間発達学。pp2-3. 診断と治療社。2023. 10.
- 3) 笹田哲：幼児期。人間発達学。pp24-43. 診断と治療社。2023. 10.
- 4) 笹田哲：学齢期。人間発達学。pp44-54. 診断と治療社。2023. 10.
- 5) 笹田哲：中学生高校生。人間発達学。pp55-62. 診断と治療社。2023. 10.
- 6) 笹田哲：微細運動。人間発達学。108-111. 診断と治療社。2023. 10.
- 7) 笹田哲：遊び。人間発達学。213-216. 診断と治療社。2023. 10.
- 8) 笹田哲：作業。人間発達学。220-224. 診断と治療社。2023. 10.
- 9)

2 学術論文

- 1) Ikeda K, Sasada S. (2024). Identifying characteristics of stroke patients benefiting from interprofessional collaboration. *British Journal of Occupational Therapy*.
<https://doi.org/10.1177/03080226241233127>
- 2) Nakamura T, Koyama S, Nagayama H, Sasada S. (2023). Participation questionnaire for preschoolers with autism spectrum disorder: content validation and item development. *medRxiv*.
<https://doi.org/10.1101/2023.08.22.23294206>
- 3) Nakamura T, Nagayama H, Sasada S. (2024). Development and Validation of the Participation Questionnaire for Preschoolers with Autism Spectrum Disorder: A Focus on Structural Validity, Internal Consistency, and Construct Validity. *medRxiv*.
<https://doi.org/10.1101/2024.02.13.24302559>
- 4) 林慎也, 池田公平, 村仲隼一郎, 神保匡良, 田中雅士, 高見澤 広太, 笹田哲. (2024). 脳卒中のリハビリテーションにおける患者報告アウトカム: スコーピングレビュー. *作業行動研究* 28(1).
- 5) 重田優子, 笹田哲. (2023). 回復期リハビリテーション病棟退院後の男性脳卒中者が「ありたい自分のイメージ」と折り合いながら社会参加を継続するプロセス. *作業療法* 42(2): 426-434.
- 6) 佐藤慶一, 笹田哲. (2023). 回復期リハビリテーション病棟に従事する作業療法士が脳卒中者のトイレ動作を自立と判断する要因. *作業療法* 43(1):

70-77.

- 7) 金原衣理子, 笹田哲. (2023). 脳卒中により半身麻痺となった女性がファッションショーを通して障害の捉え方が変化していく心理プロセス. 質的心理学研究 22 : 369-387.
- 8) 後藤健太郎, 中村拓人, 笹田哲. (2023). 作業療法における児童虐待予防の特徴:質的記述的分析. 日本作業療法研究学会雑誌 26(1) : 13-20.
- 9) 池田公平, 笹田哲. (2023). セラピスト連携実践尺度 (Therapist Collaborative Practice Scale; TCPS) の信頼性および妥当性の検証. 作業療法 42(6) : 709-717.
- 10) 濱田匠, 笹田哲. (2023). 重症心身障害児の自立活動のコンサルテーションにおける医療機関に所属する作業療法士の専門性に対する学校教諭との認識の共有に向けた方略—混合研究法の説明的順次デザインによる検討—. 作業療法 42(4) : 416-425.
- 11) 中村拓人, 野口夏蓮, 池田公平, 笹田哲. (2024). 自閉スペクトラム症の家族機能に関連する要因は何か?-スコーピングレビュー-. 作業療法 43(1) : 15-22.
- 12) 重田優子, 笹田哲. (2023). 回復期リハビリテーション病棟退院後の男性脳卒中者が経験した社会参加のプロセス. 日本作業行動研究 27(3) : 159-168.

3 学会等での活動

- 1) 林慎也, 室澤信志, 笹田哲: 動機づけ面接を利用した遠隔作業療法にて麻痺手の使用頻度が向上した一事例 -ABAB デザインによる検討-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
- 2) 重田優子, 笹田哲: 作業療法士と対象者との間にはどのような差異・ギャップが存在するのか. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
- 3) 金原衣理子, 笹田哲: 障害者のおしゃれの支援に関する文献研究—好きな衣服を着ることに着目して—. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
- 4) 丸岡ちひろ, 笹田哲: 医療機関で加療している脳血管障害者の作業に基づく実践-文献レビュー-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
- 5) 後藤健太郎, 中村拓人, 笹田哲: 作業療法士による児童虐待予防の類型. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
- 6) 後藤 健太郎, 笹田哲: 専門職間連携による児童虐待予防に係る専門職と機関の特徴と作業療法士の課題. 第 29 回日本子ども虐待防止学会, 2023. 11. 大津市.
- 7) 神保匡良, 笹田哲: 人間作業モデルの学びと実践が作業療法の独自性の発揮に与える影響-1 事例による質的分析-. 第 32 回日本作業行動学会学術集会,

2023. 6. 福島市.
- 8) 神保匡良, 笹田哲: 人間作業モデルの実践の経験が作業療法士の専門性の認識に与える影響-SCAT を用いた質的分析-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 9) 井上由貴, 笹田哲: 橈骨遠位端骨折患者における作業質問紙と痛みの自己効力感の傾向-一事例の報告-. 第 32 回日本作業行動学会学術集会, 2023. 6. 福島市.
 - 10) 井上由貴, 池田公平, 牛腸昌利, 村仲隼一郎, 笹田哲: 橈骨遠位端骨折の対象者の選定方法と作業療法内容の傾向-文献レビュー-. 第 57 回日本作業療法学会, 沖縄(2023. 11. 11.)
 - 11) 野村真弓, 笹田哲: 急性期病院の認知症患者に対する作業療法実践-過去 10 年間の文献レビュー-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 12) 安部林太郎, 笹田哲: 急性期病院入院中の心疾患患者に対する作業療法実践に関する文献レビュー. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 13) 阿部直人, 笹田哲: 急性期身体障害領域における作業に焦点を当てた実践に関する文献レビュー. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 14) 平松恭介, 古田憲一郎, 笹田哲: 訪問・通所リハビリテーション利用者の作業療法目標と支援-日本作業療法士協会事例報告登録システムによるナラティブレビュー-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 15) 池田公平, 笹田哲: 脳卒中患者の日常生活活動改善の予測因子-医療提供体制と臨床過程の構造方程式モデリング-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 16) 牛腸昌利, 窪田聡, 古舘卓也, 笹田哲: 座位姿勢の違いは健常成人の運筆のパフォーマンスと頭部移動距離に影響するか. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 17) 濱田匠, 笹田哲: 重症心身障害児の自立活動に対する作業療法士の専門性を学校教諭と共有するための方略-混合研究法の説明的順次デザインによる検討-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 18) 中村拓人, 長山洋史, 笹田哲: こどもの参加質問紙-自閉スペクトラム症児の疾患特異的参加測定ツールの開発-. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 19) 佐藤慶一, 笹田哲: 回復期リハビリテーション病棟に従事する作業療法士が脳卒中者のトイレ動作を自立と判断する要因. 第 57 回作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 20) 田中雅士, 池田公平, 笹田哲: 回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の卒後教育の課題. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 21) 高見澤広太, 笹田哲: 筆記具の把持形態がもたらすパフォーマンスの特徴. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.
 - 22) 杉山いずみ, 笹田哲: 生活支援員と看護師における重症心身障害者に対する集

団活動支援の意識と支援の変化. 第 57 回日本作業療法学会, 2023. 11. 那覇市.

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) NHK Eテレ特別支援教育「ストレッチマン・ゴールド」番組企画委員
- 2) 教育出版社 小学校教科書「国語科書写」編集委員
- 3) 教育出版社 中学校教科書「国語科書写」編集委員
- 4) 横須賀市建築審査会委員
- 5) 日本作業行動学会 理事
- 6) 日本発達系作業療法学会 理事
- 7) 日本発達系作業療法学会 学術誌査読委員
- 8) 第 57 回日本作業療法学会 演題採択委員

5 学内教育活動

- 1) 大学院博士後期課程 指導教員 5名
- 2) 大学院博士前期課程 指導教員 6名
- 3) 学部 卒業研究 指導教員 4名
- 4) オープンキャンパス リハビリテーション学科の紹介
- 5) 横須賀市馬堀小学校特別支援学級 交流授業 2023. 11.

6 学内各種委員会活動

- 1) 学長補佐会議
- 2) 総務企画委員会
- 3) 学科長会議
- 4) 教育研究審議会
- 5) 昇任委員会、任期委員会
- 6) 研究科運営委員会
- 7) 内部質保証推進部会
- 8) 自己評価委員会
- 9) アドミッション運営会議

7 社会貢献

- 1) 神奈川県立養護学校自立活動（専門職）OT 部会アドバイザー2023. 10.
- 2) 東京都特別支援学校 外部専門員 2023. 9.

8 外部資金

- 1) 文部科学研究費助成事業「基盤 C 効果的な児童発達支援には何が必要か：評価指標の開発と促進因子の抽出」研究分担
- 2) 神奈川県作業療法士会研究助成事業 「書字の運筆における座位姿勢と体幹筋活動の関連」研究分担

9 新聞・放送等

- 1) NHK E テレ「でこぼこポン」縄跳びが上手に跳べる発明品. 監修. 2023. 10.

10 受賞等

日本作業行動学会 優秀論文賞

人間作業モデルの学びと実践が作業療法の独自性の発揮に与える影響. 第 32 回日本作業行動学会学術集会, 2023. 6. 福島市.